



平成 2 1 年度

近畿中国森林管理局における

国有林野の管理経営の取組状況について

平成 2 2 年 1 1 月

近畿中国森林管理局

## <目 次>

○ はじめに	1
1 計画的な木材供給の推進	2
2 森林施業の効率化・共通化等の取組	4
3 林業技術の開発・普及・啓発、林業事業者の育成	6
4 安心・安全への取組	8
5 生物多様性保全に配慮した取組の推進	9
6 上下流の連携強化のための下流住民等に対する 情報提供、林業体験活動等	10
○ 資 料	12

## はじめに

国有林は、国土の約2割、森林面積の約3割を占め、その多くは奥地山岳や水源地域にあり、原始的な天然林も多く残されています。

このため、国有林に対しては国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、保健休養の場の提供といった公益的機能の発揮が強く求められています。近年では、これらに加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林とのふれあいや環境教育への貢献など、国民の期待や要望はさらに多様化しています。

国有林野事業では、公益的機能の維持増進を図る方針のもと、流域ごとに森林計画を立てて適切かつ効率的な管理経営を行っています。

### ○ 近畿中国森林管理局が管理する国有林の特徴

近畿中国森林管理局は、東は石川県から西は山口県までの2府12県を管轄区域とし、国有林31万ha、官行造林3.1万haの管理経営を行っています。

管内の国有林は他の森林管理局の国有林と比較して次のような特徴があります。

#### 社会的条件から見た特徴

- ・ 里山が多い
- ・ レクリエーションの対象が多い
- ・ 開発、保全双方の要望が強い

#### 自然条件から見た特徴

- ・ 小面積で分散している
- ・ 公益的機能の面で重要な森林が多い
- ・ 人工林の割合が高い

# 1 計画的な木材供給の推進

京都議定書の温室効果ガス削減目標の着実な達成に向けて、間伐をはじめとする森林整備を積極的に推進しています。また、これに伴い伐採される間伐材等について、システム販売、委託販売を通じた安定供給と利用拡大に努めるとともに地域材、未利用材等の利用拡大について積極的に推進しています。

## ○ 地球温暖化防止対策の推進間伐等の重点的な推進

京都議定書の第1約束期間（平成20～24年）における森林吸収量目標である1,300万炭素トンの確実な達成に向けて、間伐をはじめとする森林整備を積極的に推進しています。〔全署等で実施〕

■ 間伐(面積)実施状況  
OH21年度 間伐面積 8,591ha (7,319ha)  
\* ( ) H20年度実績

■ 間伐(収穫量)実施状況  
OH21年度 間伐収穫量 69万5,255m<sup>3</sup> (66万3,073m<sup>3</sup>)  
\* ( ) H20年度実績



## ○ 間伐事業等の計画的な森林整備及び効率的な路網整備

森林吸収量の目標達成のため、人工林の間伐等、計画的な森林整備と搬出コストの低減を図る効率的な路網整備により、計画的な木材供給の推進を行っています。〔全署等で実施〕

■ 路網整備実施状況  
OH21年度 作業道開設量 31.0km (27.1km) \* ( ) H20年度実績  
OH21年度 集材路作設量 174.8km (146.7km) \* ( ) H20年度実績



素材生産の低コスト化を進めるため、低コスト路網生産システムの現地検討会を実施しています。〔島根署、広島署で実施〕

【事例】広島森林管理署管内の鷹ノ巣山国有林（東広島市）において、行政機関、林業事業者を対象に現地検討会を実施し、低コスト・高効率作業システムの推進に努めました。



(路網作設の実演)

(意見交換会の様子)

## ○ 計画的な木材の供給

間伐材等の一般材や低質材を森林管理局と大口需要者との間で協定を締結し、安定的・計画的な販売「システム販売」を推進しています。

また、民間市場への素材販売の委託を行うなど樹材種の特質に応じた有利な販売や販路の拡大に努めています。

〔全署等で実施〕

### ■ 木材販売の実施状況

OH21年度 立木販売 9万9,926m<sup>3</sup> (11万4,563m<sup>3</sup>)

OH21年度 素材(材)販売 10万158m<sup>3</sup> (9万4,425m<sup>3</sup>)

\* ( ) H20年度実績



## 〔トピックス〕 林地残材等低質材の有効活用

岡山森林管理署では、「バイオマスタウン構想」を展開する岡山県真庭市、津山市とともに真庭木材事業協同組合の「バイオマス原料集積基地」等を視察し、C材の価格等について意見交換を実施するとともに、土倉山国有林（岡山市）において、林地残材を販売し、低質材の有効利用に取り組みました。



(林地残材)



(原木置場（真庭バイオマス集積基地）の様子)

## ○ 公共工事の木材利用推進について

治山・林道事業等において、木材の有効利用や景観に配慮するため、間伐材等の積極的な利用を図っています。

〔全署等で実施〕

### ■ 治山・林道事業（作業道含）の木材利用状況

OH21年度実績 1万3,541m<sup>3</sup>

(1万104m<sup>3</sup>)

\* ( ) H20年度実績



(木製残存型枠工)

## ○ 庁舎等への木材利用

庁舎や公務員宿舍の新築工事においては積極的に地域材を使用しています。

〔和歌山署、岡山署で実施〕

【事例】和歌山森林管理署では、地域材を利用して、森林事務所を新築しました。

(写真右：和歌山署  
龍神森林事務所)



(写真下：岡山署公務員宿舍)



## 2 森林施業の効率化・共通化等の取組

地域における多様で豊かな森林づくりと森林資源の有効活用を進めるために、国有林の所在する地域の林業関係者に働きかけ、民有林と国有林が一体となって施業を行う「森林共同施業団地」の設定を行い、施業の集約化・効率化に向けた取組を行っています。

### 〇民有林と国有林が連携した森林整備の推進

「森林共同施業団地」は平成19年度から設定をはじめ、平成21年度は9箇所を新たに設定し、21年度末までに近畿・中国地域の5府県(8流域) 27箇所を設定しています。

なお、未設定署を含む管内全署等において、検討会の開催、候補地の選定や相手方との調整など、更なる共同施業団地実現に向けた取組を行っています。

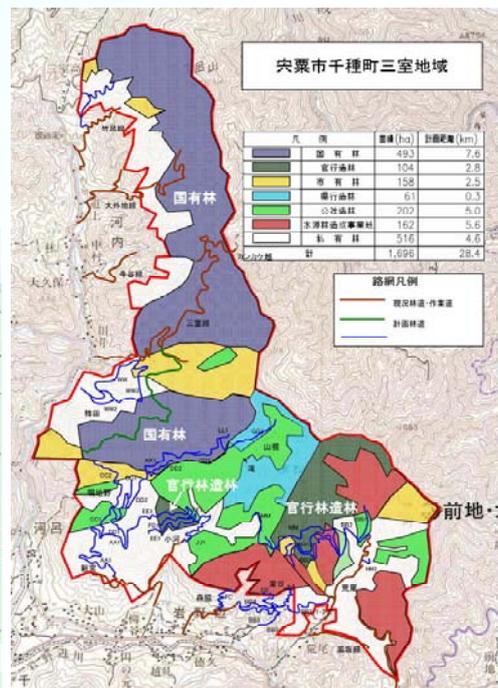


### 平成21年度 9団地(5府県) を新たに設定

【事例】兵庫森林管理署管内の宍粟市三室地域において、国有林と隣接する県有林、市有林、私有林、森林農地整備センター造林地等の所有者と協定を結び、当局で最大規模となる森林共同施業団地(面積:1,696ha)の設定(H21.12)を行いました。



(協定締結の様子)

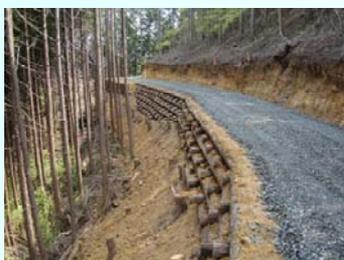


【事例】広島北部森林管理署管内の藤野呂地区(H21.7)、甲野村山地域(H21.8)の2箇所共同施業団地の設定を行いました。

なお、甲野村山地域においては、A社(庄原市)と協定を締結し、この協定に基づき、社有林と国有林が相互に調整・連携し、効率的な路網整備や計画的な森林整備並びに森林環境教育を連携して実施しています。



(間伐作業地の状況)



(作業道の作設状況)



(森林環境教育実施の様子)

【事例】島根森林管理署管内の平柄山・中ノ谷・細尾地域において、共同施業団地の設定(H21.12)を行いました。

島根森林管理署管内では、21年度末で、21箇所(9,892ha)を設定しています。これらの地域においては、21年度末までに作業道の開設47Km、森林整備(間伐)面積1,000haが実施され、2万1,000m<sup>3</sup>の間伐材が販売されています。

(写真右：共同施業団地での間伐作業の様子)



【事例】和歌山森林管理署管内の美山地域(西ノ河国有林)において、紀州地方初となる設定(H22.1)を行いました。

(写真左：協定締結式の様子)



【事例】京都大阪森林管理事務所管内の由良川流域(古谷国有林)において、京都府内では初めてとなる共同施業団地の設定(H22.3)を行いました。

(写真右：共同施業団地の現地検討会の様子)

## 〇歴史を未来へつなぐ森林づくり

世界文化遺産の所在する京都、奈良、三重、和歌山、広島の国有林において、「世界文化遺産貢献の森林」を設定し、木造文化財等との一体となった景観の保全等に努めています。また、「檜皮採取対象林」を設定し、文化財等の修復に必要な檜皮の供給に努めています。

〔三重署、滋賀署、京都大阪所、兵庫署、奈良所、和歌山署、岡山署、広島署、山口所で実施〕

【事例】京都大阪森林管理事務所では、主要樹種であるアカマツやヤマザクラが減少するなど往時の姿が大きく変化しつつある嵐山国有林について、平成21年度に地元関係者及び専門家の参画による「嵐山国有林の今後の取扱方針」を作成しました。

今後も地元関係者及び専門家の協力を得ながら、嵐山国有林の適切な管理・保全を実施します。



### 3 森林技術の開発・普及・啓発、林業事業体の育成

国有林のフィールドを活かし、民有林と連携した技術開発に取り組むとともに、低コストな森林整備等の検討会等に取り組んでいます。

また、林業の担い手を確保するため、国有林を研修フィールドとして提供しています。

#### ○低コスト造林の推進

林業労働力の減少と高齢化が進む中、担い手の育成が重要となっています。このため、機械化が困難な造林作業について低コスト化を図るため、新たな造林技術の普及、啓発に取り組んでいます。

〔三重署、森林技術センターで実施〕

(写真上：セラミック苗の植栽の様子)

(写真右：セラミック苗)

【事例】三重森林管理署では、低コスト造林の効果が期待できる「セラミック苗」による植栽を国有林内において、三重県と共同で試験的に実施しました。

【事例】森林技術センター（岡山県新見市）では、生分解性シートやビニールチューブ等の簡易な軽量ポットを試作するとともに、挿し木苗木の生育状況の調査等を行い、育林技術の低コスト化に向けた技術開発を進めるために、関係機関、有識者による検討会等を実施しました。

(写真右：現地検討会の様子)

#### 〔トピックス〕森林の多様性保全型 低コスト林業検討会の開催

和歌山森林管理署では、人工林の生物多様性保全機能を高めつつ、持続可能な林業生産のための低コスト林業を図る森林施業方法等について試験・検討を行い、今後の人工林の扱い方のモデルを示すため、有識者による「森林生物多様性保全型低コスト林業検討委員会」を開催しました。



(現地検討会の様子)



(検討委員による意見交換会の様子)



## 4 安心・安全への取組

管内の国有林は、都市近郊林をはじめとする居住地域に近い隣接する国有林が数多く存在しており、山地崩壊等の災害が直接住民に被害を及ぼす可能性も高いことから、治山事業等の効果的实施を通じて国土保全、防災対策を進め、山地災害等の防止及び復旧に取り組んでいます。

### ○ 地域の暮らしを守る治山事業

豪雨などによる山地災害が発生した場所で治山事業を実施して、森林の早期復元、適切な維持管理を図ることにより、地域の安全・安心の確保に努めるとともに、地域住民等に対して、治山事業の説明会等を行い、治山事業の意義について、認識を高めてもらうよう取組を行っています。〔全署等で実施〕

#### ■ 治山事業実施状況

OH21年度 治山事業量（当初予算） 21.9億円（23.9億円） \*（ ）H20年度実績



集中豪雨等により、荒廃し、公益的機能が低下した森林について、治山施設を設置することにより、森林への早期復旧を図っています。

（写真：石川県手取川地区（民有林野内直轄治山事業）における復旧状況）

【事例】京都大阪森林管理事務所管内の鞍馬山・貴船山国有林（京都市）では、近年増加するゲリラ豪雨等の被災者ゼロを目標とし、治山事業施工地の見学会とあわせて、危険箇所の周知や避難体制の整備などについて学習会を行うなど地域住民との連携に取り組みました。



（写真：鞍馬山国有林（京都市）において治山事業施工地を説明する様子）

### 〔トピックス〕 地域住民の生命と財産を守る治山事業のPR活動

石川森林管理署では、治山事業地をフィールドとして森林ボランティア団体への現地見学会の実施や白山登山の拠点である「市ノ瀬ビジターセンター」（白山市）内にPRコーナーを設置し、治山事業の重要性を広くPRしました。



## 5 生物多様性保全に配慮した取組の推進

原生的な天然生林や貴重な野生動植物が生息・生育する森林について適切に保全・管理を図るとともに野生鳥獣の保護管理と森林への被害対策に取り組んでいます。

### ○ 野生鳥獣との共生を目指した森林づくり「緑の回廊」

管内では、保護林（74箇所、1.9万ha）を設定し、原生的な天然林や貴重な野生動植物の生息・生育地等の保護を行っています。〔全署等で実施〕

これらの保護林を相互に連結し、野生動植物の移動経路として、白山山系（石川県・福井県・岐阜県・富山県）、越美山地（福井県・滋賀県・岐阜県）、東中国山地（兵庫県・鳥取県・岡山県）の3箇所に「緑の回廊」を設定し、野生鳥獣との共生を目指した森林づくりを進めています。〔石川署・福井署・滋賀署・兵庫署・岡山署・鳥取署で実施〕

【事例】兵庫県・鳥取県・岡山県の3県にまたがり、かつ民有林も含む「東中国山地緑の回廊」では、上山高原エコミュージアム及び畑ヶ平国所有林（兵庫県新温泉町）において、ワークショップを開催し、地域・関係機関等が連携した取組を行いました。



（写真：トレッキングの様子）

### ○ 野生鳥獣による森林被害対策

近年、山村地域の環境の変化から、野生鳥獣による農林被害が多発しています。国有林においてもニホンジカやカワウなどによる被害が各地で発生しており、民有林とあわせ、地域と連携した被害対策に取り組んでいます。

〔箕面森林環境保全ふれあいセンター・三重署・滋賀署で実施〕

【事例】ニホンジカによる森林被害対策  
箕面森林環境保全ふれあいセンターと三重森林管理署では、三重県の大杉谷国有林（大台町）において、ニホンジカによる森林被害対策を保護管理計画と一体的に進めていくため、関係行政機関、NPO等と連携して実証試験モニタリング等を実施しました。



（ラス巻きの様子）



（意見交換会の様子）

【事例】カワウ森林被害対策  
滋賀森林管理署において、滋賀県、研究機関、大学等と連携して「伊崎国有林の森林管理におけるカワウ対策方針」に基づき、森林被害対策及びカワウ対策について、検証、モニタリング等を実施しました。



（カワウ生息区域遠望）



（カワウ）

## 6 上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動等

森林づくりに関心を寄せる多くの市民や企業などが気軽に活動に参加できるよう多様な取り組みを行うとともに、森林・林業に理解を深めてもらうよう森林環境教育の取り組みを進めています。

また、地域や市民団体との共催によるふれあいイベントの開催を行っています。

### ○「法人の森林<sup>もり</sup>」や「ふれあいの森」を活用した森林づくり

「法人の森林<sup>もり</sup>」の設定や「ふれあいの森」協定の締結などにより、国有林のフィールド提供を通じ、企業の森林づくり（CSR活動）やNPOとの協働による森林づくりを積極的に支援しています。

【事例】株式会社Hでは、三重森林管理署管内の悟入谷国有林（いなべ市）の「法人の森林」において、平成15年度に植樹を行い、毎年、社員の有志で下刈作業などを実施し、社会貢献活動「緑化支援運動」に取り組んでいます。

（写真右：分収造林地において下刈作業を行った後の様子）



【事例】京都大阪森林管理事務所では、京都府が取り組む府民参加型の森林活動を支援するため、（社）京都モデルフォレスト協会と「ふれあいの森」協定を締結し、同協会が行う除伐作業等に対して、フィールドの提供や技術指導等を支援しました。



（写真：「ふれあいの森」協定の協定式と除伐作業の様子）

### 〔トピックス〕漁協等と連携した「海山交流」の実施

島根森林管理署では、漁協等と連携して国有林をフィールドに林業体験活動等を行い、海で働く方との交流を通じて、森林の重要性を広くPRしました。



（写真：下刈作業の様子）

## ○ 地域住民と連携した森林の整備

管内の国有林には、飛砂防備などを目的として整備している海岸林や居住地域に近い都市近郊林など、地域のシンボルとなっている国有林が数多くあり、地域ぐるみの保全活動が進められています。

【事例】福井森林管理署では、北湯国有林（あわら市）において、環境保全活動に取り組んでいるボランティア団体と連携し、植樹活動を実施しました。

（写真：北湯国有林と地域住民による植樹の様子）



【事例】山口森林管理事務所では、都市近郊林である城山国有林（岩国市）において、地元自治会と連携して竹林の伐採作業を行いました。

（写真：錦帯橋の借景である城山国有林と伐採作業の様子）



## ○ 「遊々の森」を活用した森林環境教育の実施

国有林の豊かな森林環境を活かし、子どもたちが自由に遊び、学びながら体験活動を行うフィールドとして「遊々の森」を設定し、森林教室等の森林環境教育を実施しています。

【事例】奈良森林管理事務所では、都市近郊に位置する大亀谷国有林（奈良市）において、幼稚園園児を対象に「森の幼稚園」活動の森林環境教育を実施しました。



【事例】鳥取森林管理署では、鳥取自然休養林である旧城山国有林（鳥取市）において地元小学生を対象に森林教室を実施しました。



## 〔トピックス〕「水都おおさか森林の市2009」の開催

平成21年10月10日（土）～11日（日）に当局及び隣接する大阪アメニティパークと毛馬桜之宮公園で「大川端に森林が出現、見て触れて使って守ろう、緑のもり」をキャッチコピーに球温暖化防止をテーマに開催し、約3万人の方々の来場がありました。



（オープニングセレモニー）



（ふるさと産品 木製品販売の様子）



（ハーブ体験の様子）

## ○ 資料

### 1 国有林の現状

【平成21年4月1日現在】

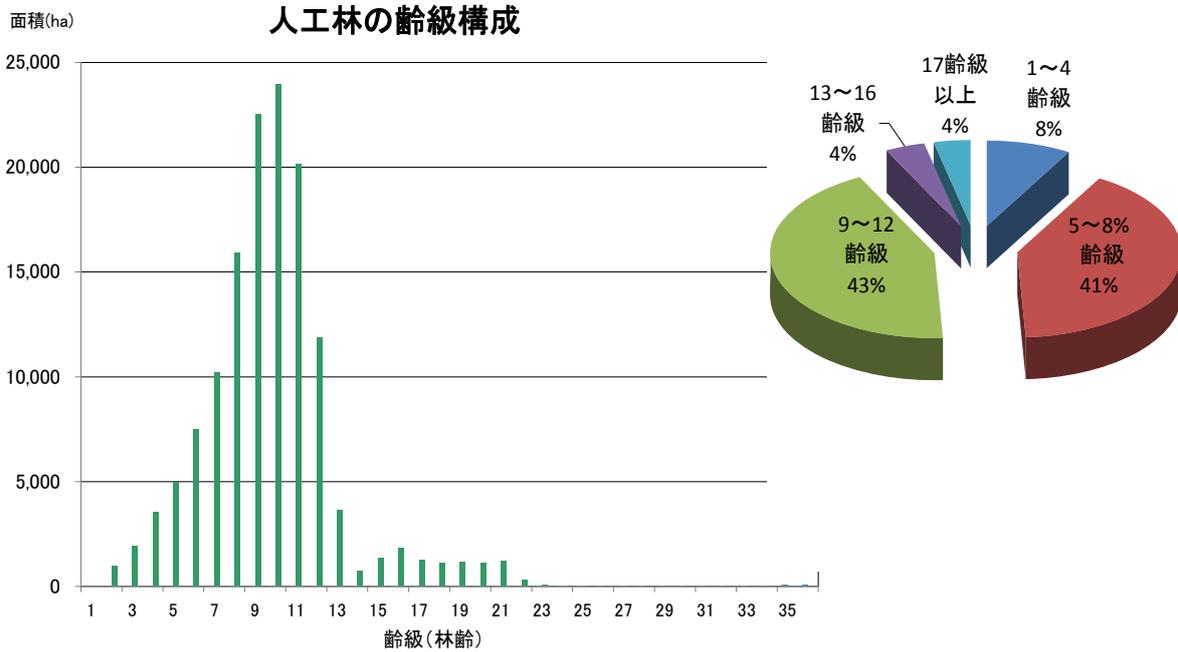
#### (1) 総括表

区 分	総 数	内 訳		
		人工林	天然林	その他
面 積(万ha)	31	14	15	2
蓄 積(万m3)	4,495	2,787	1,707	1
成長量(万m3)	106	86	20	0

#### (2) 人工林の樹種別面積の内訳

区 分	スギ	ヒノキ	その他	計
面 積(万ha)	5.4	5.8	2.5	13.7

#### (3) 人工林の林齢別面積の割合



注) 齢級とは、林齢を5年毎に区切ったもので、例えば林齢1～5年生を1齢級と称します。

### 2 森林の機能類型区分

森林の機能類型区分			面積(万ha)	比率(%)
公益林	水土保全林	国土保全タイプ	7	70
		水源かん養タイプ	15	
	森林と人との共生林	自然維持タイプ	5	25
		森林空間利用タイプ	3	
資源の循環利用林			1	5
計			31	100

### 3 緑の回廊

区 分	面 積(ha)	備 考
白山山系緑の回廊	42,870	緑の回廊 42,870ha ※ 連結される保護林 17,590ha
越美山地緑の回廊	24,489	緑の回廊 24,489ha ※ 連結される保護林 2,715ha
東中国山地緑の回廊	6,191	緑の回廊 6,191ha 連結される保護林 581ha

注) ※ 中部森林管理局管内を含む。

4 保護林

区 分	箇所数	面積(ha)	代 表 地
森林生態系保護地域	3	11,633	大杉谷(三重県)、白山(石川県)、大山(鳥取県)
森林生物遺伝資源保存林	2	2,309	黒蔵谷(和歌山県)、犀川源流(石川県)
林木遺伝資源保存林	21	808	音水(兵庫県)、西ノ河(和歌山県)
植物群落保護林	43	3,744	榎平山(広島県)、千丈平(石川県)
特定動物生息地保護林	4	227	夜叉ヶ池水生昆虫(福井県)、天王山(岡山県)
特定地理等保護林	1	30	岩見山(広島県)
計	74	18,751	

5 レクリエーションの森

区 分	箇所数	面積(ha)	代 表 地
自然休養林	9	6,034	箕面(大阪府)、笠戸岩国(山口県)
自然観察教育林	15	1,420	春日山(奈良県)、三ツ石山(島根県)
風景林	85	11,653	高野山(和歌山県)、宮島(広島県)、大山(鳥取県)
森林スポーツ林	3	300	札楽山(兵庫県)、扇ノ仙(鳥取県)
野外スポーツ地域	11	1,720	豪円山(鳥取県)、奥伊吹(滋賀県)
風致探勝林	7	1,738	鹿久居島(岡山県)、三瓶山(島根県)
その他	9	13	太神山園地(滋賀県)、台山園地(兵庫県)
計	139	22,878	

6 法指定地域

区 分	面積(万ha)	管内国有林面積に占める割合(%)
保安林	28.7	92
自然公園	10.8	35
鳥獣保護区	7.6	24

注) 保安林については、2種類以上の保安林に指定されている森林がありますが、「面積」は重複を除いた実数で掲上しています。

9 林道等総延長

区 分	総延長(km)
自動車道	2,131
作業道	124
集材路	361

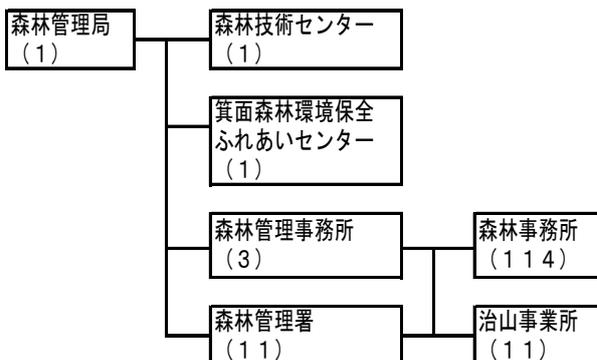
7 各種事業

事業別	平成20年度	平成21年度
間伐面積(ha)	7,319	8,591
間伐収穫量(万m <sup>3</sup> )	66.3	69.5
立木販売量(万m <sup>3</sup> )	11.5	10.0
素材(丸太)販売量(万m <sup>3</sup> )	9.4	10.0
植付面積(ha)	188	78
林道開設量(km)	1.4	2.4
作業道開設量(km)	27.1	31.0
集材路作設量(km)	146.7	174.8
治山事業量(億円)	23.9	21.9

10 国有林の活用

区分	面積(ha)
貸付使用	2,704
分取造林	3,007
分取育林	3,172
共用林野	1,171

8 組織



11 人員

区 分	H20.4.1	H21.4.1
定員内職員	469 人	463 人
定員外職員	17 人	15 人
合 計	486 人	478 人